

## ▲▲▲ 高尾山 ▲▲▲

星野 眞知子

平成28年は暖冬だったせいか町なかの木々の葉も茶涸れていつしか散ってしまった。錦秋を楽しんだのは松本に向かう中央高速の車、シリウスで北信の山へ行った時に走る車の中からと少なかった。一昨年は20回ほど高尾山に通ったのに昨年は一度も足を運んでいない。

時おり美味しいと思う食べ物は飽きるまで食べ続け、テーマパークやお気に入りの店など嫌になるまで通う癖がある事なのでこの一山集中もあり得る事でそのうち飽きると背を向ける嫌な性分だ。高尾山は2～3時間から7～8時間コースで遊ぶ事ができて帰宅が苦にならないお山だ。高尾山に行くようになったのはここ3～4年前からで、気分や体調で如何様にでもコースを選べて四季を楽しめるところに惚れていった。

一昨年は雪の道やドタ靴を下せなくて椿花を避けながら歩いた道、二輪草の花畑、桜の花道が、水音が、そして華やかな紅葉と目に耳に四季を感じた高尾山だった。陣馬から高尾へ、北稜から南稜へ、縦横無尽に徘徊して遊び、下山は高尾か高尾山口に決めていた。一人が多かったがひたすら歩くことを楽しんだ。結果休憩無しで歩き、適宜な水分補給も忘れがちで足がつる経験を幾度かした。あれから1年以上も足を運んでいない。最近シリウスでの山行に多く手を上げて楽しませて貰い、仲間達と喋りながら歩く楽しさにはまって高尾山一人歩きは思い出す事も忘れていた。

2年前、縦走後に裏高尾の荒井バス停近くを歩いていて、ここから北の管理棟に下りようと思いついた。時間は午後2時半。コースは初めてで12月、日没が早い。途中まで歩いたが一向に登りにならず陽の傾きと追っかけっこになる。地図もライトも持参していたが初コースで暗くなるのは敵わないと、さっと踵を返す決断の早さに驚きながら元来た道をすたこらと引き返した事があった。

後日、南から北へ歩き富士見台で休んでいると御主殿へ下りると云う殿方がいてコースをご一緒させて頂いた。ノラと云う父が甲斐犬、母がビーグルの温厚努力型の性格、登山、介護の特技を持つ(ノラの名刺より)ガイド犬も一緒。

殿方は都民の森のガイドさんでコースの詳細、山の知識や情報を色々と教わり今回のコースは木の葉が落ちるとルートが解らなくなるので歩かない方が良いとのアドバイスも。確かに僅かな踏み跡が落ち葉に隠れては雑木林の真ただ中に放り出されるようなものだろう。歩き慣れているガイドさんは右に左に葉を落とした木々の間を縫うように歩いた。

昨年の師走、久々に恋しくなって、この年最初で最後の高尾山に向かう。駅から歩ける山は有り難い。高尾駅から管理棟まで体慣らしに歩き管理棟にガイドの方がいたので土曜日だと気がついた。御主殿コースを聞くとやはりこの時期はルートが不明瞭で今はロープを張っているとの事。立ち入り禁止なら無理。あの時ガイドさんと歩いたコース途中で荒井バス停への道標があったのを思い出しあのルートを繋いでおこうと思いつく。

鳥居をくぐり歩き始めた懐かしい道。金子丸の椿林で一輪残った花から満開時を想像し柵門後を過ぎ本丸の日当たりの良い所で休憩。朝食のわさび稲荷を食べて腰を上げる。井戸のポンプを押すと勢いよく水が出る、足元には野いちごが鈴なりで口に入れると完熟甘味。何か物を見つけると触ってみたいくなり立ち止まりが多い。今回はつまづかないように、転ばないように心掛けて足運びに意識して歩く。最近小さな段差で失敗する事が多いので見くびっていると捻挫や打撲で泣きを見る事になる。擦り傷、切り傷でも風呂に入るのに難儀な事になってしまうので足運びに慎重にならなければならない。最近嫌と云うほど経験済みで怯えている。


詰丸から山道らしいコースになり気が抜けない。前方から見覚えのある女性が下りてきた。井戸の所で随分前に言葉を交わした女性だ。「富士見台はこの道で合っていますか」合っていますよ。この先で道が無いと云うので???ここは富士見台まで3~400m程の場所。行く先を見るとやはり私が前回やってしまった失敗だ。

「良く見てごらんなさい、見落とすほどの道が右に折れていませんか。「あります、ありました」とホッとされた様子。時間のロスがあったようなのでお先にどうぞと譲るとアッと云う間に見えなくなった。山の友人Mさんもここをかなり先まで進んでいたようで私が同行者と大声で喋る声が聞こえるうちにと駆け下りてきたと云う。私は足元ばかり見て歩き、気が付くと道はなくなり急斜面の木につかまりながら「おかしい」と気付いたのだ。彼女達も又道なき道を突き進んでいたようだ。足下だけでなく目を上げて周りや行く先を見る事を学んだ場所だ。通い慣れていると思う気持ちの油断だろう、一人歩きの緊張感を無くした失敗だった。

また遊びながら富士見台に向かう。木漏れ日を撮り、大木の根元に落ちた実が双葉を出して7~8cm丈になり密集している様子は親に守られた幼子のように静寂の中でいくら眺めていても飽きない。富士見台は土曜日だからか老いも若きも多くの登山者で座る場所が無い。この日は富士山を確認出来る天気ではなかったがその方面を見る事も忘れて即下り始める。ここからのコースは下りに結構な勾配があり下山家と笑われる私でも今は走り下りる事は出来ない。滑らないように、転ばないようにと呪文を唱えて出した抜き足でズルッ、差し足でズルッと僅かな距離に時間をかけて荒井バス停の道標まで下りる。一休みして汗を拭き又枯れ葉と石ころでズルズルと滑る道を慎重に歩いて前回リタイヤした地点と繋げた。バス停までの距離はだらだらと結構あったので引き返しは正解だった。蛇滝口から高尾山に登り銀座並みの人混みに驚いて、ゆっくりする間もなくコーヒーを飲んで下山した。

今年の春は何をしていたのだろうか、今年は二輪草やスマレが咲き始めたら会いに行こうか。ある事ではないが年齢に牛耳られて気力が失せてしまった。早く目覚めても朝日が射しても「山へ行こう」と飛び起きる事も無く年越しの引きこもりも初体験した。行動範囲が狭くなり買い物にも出ない日が続いている。このまま引きこもっていると居心地が良くなるのか、それより座り続けて腰が痛い。健康番組で山歩きは脳育に良いと言っていた。近くてコースが多くて水と天狗焼きが美味しくて・・・溜めた記憶はリセットされ今後の記憶も保管能力が無くなってますます在宅が多くなり、意欲も気力も脚力も萎えていくのにないつも変わらずウエルカム来と迎えてくれる高尾山が恋しくなった。(2017年1月3日記)

(完)

特集記事目次画面に戻るには、画面最上段最左側の「戻るボタン」で戻って下さい